

砲丸日本一 亡き友に報告

六月中旬に大阪市で開かれた日本陸上競技選手権大会で、伊勢市出身の村上輝さん(三〇)が、男子砲丸投げで、18日29の自己ベストを記録して優勝した。「うれしいけど、日本記録更新を狙ったので悔しさも半分」と、一八一センチ、二二キロの巨体で、さわやかに笑う。競技に没頭する背景には、若くして亡くなった同級生の存在があった。

(高橋信)

村上輝さん(出身)日本陸上選手権V

村上さんは、小学二年で陸上を始め、短距離や長距離、幅跳びなどさまざまな競技に取り組んできたが、伸び悩んでいた。伊勢宮川中入学直後の春、投てきに興味を持ち、徐々に頭角を現した。しかし、大会で顔を合わせるうちに仲良くなった他校の同級生に、ずっとかなわないままだった。

村上さんは、南伊勢高校に進学。その同級生は県内の陸上強豪校に進んだが、高校一年の夏、熱中症で亡くなった。同級生は当時、県でも最も優れた投てき選手で、特に砲丸を専門にしていたという。当時の村上さんが重きを置いていた円盤投げでもかなわなかった。葬儀で同級生の両親に「県の投てきを引っ張ってほしい。代わりに日本代表の選手になってほしい」と願いを託され、砲丸投げに力を入れるようになった。

葬儀で託された思い 実現

夢の五輪へ練習重ねる

日本選手権で優勝した村上さん
＝伊勢市役所で

高校三年の高校総体では、砲丸投げで三位。名門に「息子は国士舘大に進学したが、郷土愛が強く伊勢市を離れる気がなく、半ば競技からの引退を考えていた。大学時代も一線級の選手

として活躍したが、日本の称号にはあと一步届かなかった。六月の日本選手権でようやくたどり着いた日本一。七月上旬に、地元にも報告した。心中には「今でも彼がいたらかなわないんじゃないか」という思いが常にある。しかし目標は大きく、日本人初の19日台と、パリ五輪出場。夢の実現に向けて、毎日練習に励んでいる。

